

令和元年度

第 1 回在宅医療・介護連携推進協議会

会議録（要旨記載）

日時：令和元年6月 27 日(木)午後1時 30 分～
会場：湖西市健康福祉センター3階 小会議室

1. 出席者

委員

伊藤 健（浜名医師会）
牛田 知宏（浜名医師会）
藤田 周子（湖西市医会）
尾崎 宏嘉（浜名歯科医師会）
塩野 州平（浜松市薬剤師会）
内山 大輔（介護老人保健施設まんさくの里）
鈴木 織江（浜名病院地域医療連携室）
夏目志津子（市立湖西病院在宅支援室）
白井 寿子（訪問看護ステーションはまな）
松井 喜恵（湖西市訪問看護ステーション）
内藤加代子（地域包括支援センター湖西白萩）
浅井 恵子（ケアプランセンター陽菜）
稲本 直子（サンシティあらい）
吉田 朝子（湖西市社協介護センターこさい）
山下いづみ（浜松市医師会 在宅医療推進員）

事務局

石田 裕之（長寿介護課課長）
荻野 敏明（長寿介護課課長代理）
中西 歩（長寿介護課主査）
白井まり子（在宅医療・介護連携支援センター相談員）
村田 義治（健康増進課長）
小野田健児（健康増進課課長代理）

2. 会議次第

1. 開会 挨拶
2. 新年度委員挨拶（事務局側も含む）
3. 会長、副会長選出
4. 議事
 - （1）令和元年度在宅医療・介護連携推進事業実施内容について・・・資料1
 - （2）平成30年度在宅医療・介護連携支援センター活動報告・・・資料2
 - （3）令和元年度多職種研修計画について・・・資料3
 - （4）施設における意思決定支援、看取りの現状調査について
 - （5）在宅医療介護利用者 急変時医療機関受診の現状と課題・・・資料4
 - （6）その他
5. 連絡事項
 - ・エンディングノートの作成について
6. 次回案内
 - 次回9月26日（木）（又は10月3日（木））予定

3. 会議内容(要旨記載)午後1時30分開会

1 開会あいさつ	長寿介護課長) お礼及び挨拶。人事異動による担当交代のお知らせ。
2 委嘱状交付	事務局) 委嘱状について説明。期間は令和元年6月1日から令和3年5月31日まで。
3 新年度委員挨拶	新委員及び事務局新担当者自己紹介。
4 会長副会長選出	(会長) 浜名医師会 伊藤健先生 (副会長) 浜名歯科医師会長 尾崎宏嘉先生 推薦及び委員の賛同を得て決定
5 議事	
(1) 令和元年度在宅医療・介護連携推進事業実施内容について	伊藤会長) 速やかな議事進行に協力をお願いする。事務局から説明をお願いします。 (事務局説明 資料1) 湖西市ではア) ~ク) まで全て実施。 伊藤会長) 議事1について質問等ないか。 一同) 質疑応答なし
(2) 平成30年度在宅医療・介護連携支援センター活動報告	伊藤会長) 事務局説明をお願いします。 (事務局説明 資料2) 伊藤会長) 議事2について質問等ないか。 一同) 質疑応答なし
(3) 令和元年度多職種研修計画について	伊藤会長) 今年度の多職種研修計画について意見を求める。概ね3回研修を行う予定である。 塩野委員) 昨年度の研修計画では行政説明、在宅医療のためのワンポイント情報を毎回行うようにしたが今年度も継続するのか確認したい。行政説明は、自分としては入れたほうが良いと思うが。 伊藤会長) 行政説明についてはどうか。各研修で市の人口、年齢別人口等説明をするのはどうか。 塩野委員) 製薬メーカーによる説明があるがメインの研修の時間を削るのが気にかかっている。 山下委員) 毎回なのか、研修テーマにより時間必要時は削ることも可能なのか。多職種への知識提供のためには必要なのか。 伊藤会長) 薬の知識や訪問看護ステーションで知りたいことなど組み

入れることも必要かと思う。グループワークで時間が欲しい時は削るなど時間配分によるのでは。参加者が何を知りたいのかアンケートをとるのはどうか。それをワンポイント情報として提供してもらうのも良い。

問題は研修計画。何を柱とするかが問題。各市では ACP に力を入れている。浜松市では ACP を別枠で予算配分しているときいている。

山下委員) 浜松市では、専門職向けに、地域性を考えながらの研修も考えている。多職種連携研修の他に ACP の研修も行う。地域により規模や考え方が違うことを考慮している。

伊藤会長) 湖西市では昨年度から ACP の研修を開始し、エンディングノートも配布している。今年度の研修日程について伺いたい。

塩野委員) 1 回目の研修を ACP にしたい。湖西市では 3 回の多職種連携研修に対し ACP をメインとしグループワークも入れていきたい。知識を深めるため講師を招く案もある。昨年度のアンケートで 7 月から開催してみてもとのことだったが、時間的に 7 月開催は難しい。実際に ACP のグループワークについては山下委員が東京でのマイスター研修に参加した後であれば講義が出来そうとのことだが。

山下委員) 自身は 8 月に「もしバナカード」のマイスター研修受講予定。受講後であればマイスターとして講習する際、使用可能な資料提供を頂ける。マイスターでなくても著作権を侵害しなければ教えても良いことになっているが、人に伝えるにはマイスターであるほうがより伝えやすくなると考えている。「もしバナカード」を経験することは自分の価値観を確認する時間となり、そのあとの既存のエンディングノートを作成するときに整理がつけやすくなる。今まで自分はどのように過ごしてきたのか。これからどう過ごしてどんな選択をして行くのか自分を振り返る時間と ACP の事を知り今後の事を考える時間を得ることが出来る。湖西市では多職種研修に毎回 100 人ほどの参加がある。40 人に絞るのは難しいし残念。カードをどのように調達するのも問題。例えば 2 回に分けるのも良い。浜松市にマイスターが数名いるので「もしバナゲーム」の全体の話が約 30 分とグループワーク、意見交換で 1 時間という構成はどうか。湖西市として ACP を取り組むにあたって知らせるべき知識などを盛り込む方法もある。

伊藤会長) 「もしバナカード」は専門職が自分の価値観を知り、何が大切かという事を知る気づきとなる。それにより今後、接する人にどのように心を開いて迎えるのかという研修となると思う。

牛田委員) ACP、地域リハビリ、緩和ケアがテーマとして考えられる。他に在宅医療に関しての先進地域、施設の取り組みに対する話を聞く

	<p>のも良い。</p> <p>今年度は ACP 中心であればそれも良い。今年度は初回の協議会がこの時期なので 7 月は困難。3 回が妥当。来年度から 4 回とするなら今年度中に回数、日程、内容を決めておく必要がある。</p> <p>伊藤会長) 今年度、核となるテーマを皆さんに伺いたい。湖西市では昨年度は総括的なことを宗像先生から話を伺ったが、ごく一部であった。今年度は各論的なことを行うという事はどうか。一つとして「もしバナカード」を利用して自分の価値観を知る。それをこなしながら緩和ケア（癌や心不全等）へ繋ぐために講義も入れていきたいと考えている。湖西市でも緩和ケアについて進展があり湖西病院では緩和ケア外来が開設予定である。9 月でしたか。</p> <p>夏目委員) 予約制で開設しています。</p> <p>藤田委員) 緩和ケアや看取りといろいろあるが基本的には ACP かと思う。どんな患者さんを診るにしても必要なことであり、きちんと ACP を身に着けることが良いと考える。昨年の総論的な講義を聞いて素晴らしいなと漠然と感じたが、実際に自分は目の前の方にどう使うのかが理解できていない。</p> <p>ACP を、人に行く前にまず自分がどのような価値観を持っている人間なのか知ることは大切。色々なテーマを取り入れるのも良いが、3 回の中にきちんと ACP をベースに入れる方が良いと感じる。</p> <p>伊藤会長) 骨組み部分と枝組部分を話して頂いたが施設としてはどうか。</p> <p>内山委員) 山下委員が話していた、「もしバナカード」を使用した自主研修に参加した。自分より年配の方が多かったが、自分が真っ先に「これはいらない」と、捨てたカードを次の方が早々に拾ったことに驚いた。他人の価値観を知るきっかけとしては非常に良いと思い当施設では看取りの委員会の研修でカードを使用してみた。若いスタッフもいる中で看取りをして行かなければならないため、このゲームは、すごく良い経験だったと思う。</p> <p>伊藤会長) 感覚で身に着けるという事ですね。出来るだけ多くの方に知って貰いたい。1 回で無理なら 2 回に分けての実践も考えられる。</p> <p>事務局) ケアマネから居宅療養管理指導についてしっかり知りたいと希望がある。</p> <p>内藤委員) ワンポイントに入れるか、居宅連絡会で組み込むかです。</p> <p>事務局) 薬剤師の居宅療養管理指導について主に知りたいとの事である。</p> <p>内藤委員) ケアマネに限っての事なので薬剤師さんに依頼し連絡会に</p>
--	--

	<p>組み入れるように検討する。</p> <p>伊藤会長) 居宅連絡会での調整をお願いします。</p> <p>松井委員) 訪問看護ステーション協議会、静岡県看護師協議会の研修に参加したがどちらも ACP であった。国の施策でも ACP が動いている。どの県も看護協会も ACP を普及して下さいとのこと。全体がそのような機運であるが、実際は病院へ戻りたい方が殆どである。今後、患者を在宅へ戻していくには我々がしっかり ACP に取り組むことが必要ではないかと思う。研修会で一年間やった方が良い。</p> <p>伊藤委員) ACP に取り組むとして9月くらいからで良いか。</p> <p>山下委員) 浜松のメンバーにも声掛けを考えます。</p> <p>塩野委員) 9月に2回に分けて行うのであれば(水)(木)もあるか。</p> <p>伊藤会長) では、9月に「もしバナゲーム」を2回行い、11月は講師を呼ぶということでよいか。</p> <p>塩野委員) 講師を呼んだほうが良いと思う。ACPは看護や医師で進んでいるが介護の方では研修はあるのか。視点が違ったりすることもあるのかと思うが。</p> <p>内藤委員) ケアマネジャーとしては、この研修会で学ばせていただいている。</p> <p>塩野委員) 医療の方で進めているところと一緒に知識として蓄えていくということによいか。講師も看護師や医師からお願いする流れでいいのであれば進めていく。</p> <p>山下委員) 各論の中でも皆さんが現場で活かせるためにはどのようなことを学べばいいのか。</p> <p>伊藤会長) 医師は、話のテクニックを学びたいと思っていると思う。</p> <p>山下委員) コミュニケーション技術については大学の先生と良い研修方法がないか検討しているところ。浜松市では年度後半に研修を考えている。ロールプレイは人数が多くなると難しいと思うので、コミュニケーションのことも含め基礎的な知識をお話していただくのはできると思う。</p> <p>伊藤会長) 頭ごなしに言うのも、気を使いすぎてもダメ。話のテクニックは必要である。</p> <p>山下委員) 神戸大学の木澤先生が患者さんの準備ができていないところで切り出すことは適切ではないと言っている。</p> <p>伊藤会長) ACPのコミュニケーションには時期がある。死の間際にACPはやらないし、早期の癌患者に早くからACPを行うのもタイミング的かどうかと思う。タイミングにおいてのテクニックのお話も聞きたい。テクニックについて経験豊かな先生を招くのもよい。</p>
--	--

<p>(4) 施設における意思決定支援、看取りの現状調査報告</p>	<p>藤田委員) グループワークを実際に体験したほうがよいと思う。テクニックの話を聞いたとしても実際に実施するのは難しい。患者、医療者、オブザーバー3人～4人でロールプレイしていくとかたちでグループワークを実施してはどうか。</p> <p>山下委員) グループでディスカッションするという組立であればできるかもしれない。可能であるか井上先生に相談しようと思う。井上先生にお願いするかどうかは分かりませんが。</p> <p>伊藤会長) スペシャリストの聖隸の先生など講師について検討していきます。</p> <p>塩野委員) 1回目は、「もしバナゲーム」で、2回目は、講師の先生をお呼びし、3回目はいかがするか。</p> <p>伊藤会長) 3回目(2月)はACPに的を絞り実例を用いたグループワークを実践的に行うということでどうか。2回目(11月)の講師については良い講師がいたら教えて欲しい。</p> <p>牛田委員) 研修内容とは離れるが、現状として在宅をすすめるには医師の受け皿が不足している。病院の医師にしてみると本当に在宅がいいのか、無理やり自宅に帰るのはどうなのかという意見がある。現実問題としてピーク時には病床数が足りなくなると思うし、在宅の受け皿を増やすような方向で進めていくしかない。その下地作りを病院の先生と進めていかなければいけないと感じている。その中で予算の関係もあると思うが、病院の先生も委員会に入り、実際にこの現状を聞いていただきたい。自宅に帰りたい方には、なんとかして帰してあげたいという思いがあるのがこの会の集まりであると思う。湖西病院に緩和ケア専門の先生がみえているし、地域包括ケア病棟も浜名病院にあるので病院の先生にも参加していただき知恵を絞って進めていくという意識を持つことも必要だと思う。</p> <p>伊藤会長) 病院の医師も、診療所の医師も診察の際にACPの話を気軽にできるような会話のテクニックを学ばなくてはいけない。そしてみんなで広げていけるような会になればいいと考える。</p> <p>まとめると9月に専門職の年代差を知った価値観共有ということで、「もしバナゲーム」を2回行う。11月にACPの会話のテクニックについて講師を招いて開催する。2月は全体のグループワーク。2月はまだ時間があるので今後検討していきたいと思う。このようなかたちで進めていく。</p> <p>伊藤会長) 事務局説明をお願いします。 事務局説明)</p>
------------------------------------	--

<p>(5) 在宅医療介護利用者急変時医療機関受診の現状と課題</p>	<p>一同) 質疑応答なし 伊藤会長) 事務局説明をお願いします。 (事務局 救急隊搬送の現状聞き取り内容報告及び資料4) 一同) 質疑応答なし</p>
<p>(6) その他</p>	<p>事務局) 2月から配布しているエンディングノートについて、現在 600部配布した。今後は講演会開催時、地域包括支援センターの独居訪問時に配布する予定。現在配布しているエンディングノートは来年1月末までが配布期間となっている。2月以降配布するには再契約が必要となる。市としてはACPを市民の方に啓発するツールとしてこのエンディングノートを活用していきたいため、契約を更新して作成したいと考えていることをご報告する。 牛田委員) 配布はルール通りしているのか。 事務局) はい。配布時には、エンディングノートの趣旨等を説明し、配布している。講演会で配布する場合は、講演会の中で説明をし、希望者に配布している。 牛田委員) その時は、「隣の友人の分も」というのは配布していないか。 事務局) 原則、説明をした方、本人に配布している。</p>
<p>6 連絡事項</p>	<p>伊藤会長) 次回協議会開催は9月26日の予定。 令和元年度第1回在宅医療介護連携推進協議会を終了する。</p>